

(6) パンチョ・ビヤの凋落

ウエルタとオロスコの最期

リオ・グランで・ヴァレーでPSD奇襲隊の攻撃が始まった頃テキサス・レンジャースはエルパソを中心に陰謀を企む別のグループの追跡を行っていた。北部師団との戦いで敗れ、亡命していたパスクアル・オロスコは、米国内各地に点在している様々な亡命グループの連絡役を買って出ている。1914年12月、ニューヨークを訪れたオロスコはウエルタ政府の法務長官を務めたリカルド・ロベロを介して亡命中のウエルタに連絡を取った。ロベロとオロスコはウイルソンに謁見を工作したが不成功に終わった。ウイルソンは彼等の計画に反対はしないであろうと愚かにも考えたオロスコは、カランサ転覆の計画を進めるためサンアントニオへ向かった。

その間、ウエルタは亡命先のスペインでドイツの諜報員フランツ・ヴォン・クレイストゥ大尉から資金援助の申し出を受けていた。しばらくしてウエルタはエンリケ・クレエルの訪問を受け、反乱に加わるよう説得され、二人はドイツの申し出を受けることにした。二人は1915年4月12日、ニューヨークに到着、ウエルタはドイツの大使館要員や諜報員と数度にわたり会合を重ねた。その結果、ドイツ人はウエルタの複数の銀行口座に送金すること、そして六七千丁のライフルと銃弾をUボートでメキシコの港まで運ぶことを約束した。¹

二月ほど計画を練り、6月ウエルタはオロスコと落ち合うためニューメキシコのニューマンへ向かった。法務省の捜査員が後をつけていた。6月27日、二人はニューマンで待ち構えていた兵士や保安官によって捕らえられ、中立法違反で軟禁された。連邦捜査局によるとウエルタは自分が逮捕されるように、彼の到着情報を事前に流していた。彼がメキシコへ名乗りを上げないで入ると、カランサやビヤの検閲のため新聞報道はされないであろうとウエルタは考えていた。エルパソで逮捕されたことが報道されると、皆が一斉に立ち上がるようになっていた。しかる後、ウエルタは保釈金を積んで皆に加わることにしていた。このような目論見はウエルタの誤算であった。ウイルソンはウエルタがメキシコに入る事を許さなかった。二人は保釈金を積んで釈放され、引き続き軟禁されていたが、7月3日の夜、オロスコは逃亡に成功した。一方ウエルタはフォート・プリッスの刑務所に入れられた。オロスコはエルパソの南東三十マイルほどにあるフェーベンスまで車で送られたことまでは判明したが、当局の懸命の努力にもかかわらず見付からなかった。²

8月30日、オロスコは死体となって発見された。フェーベンスから更に南東六十マイルのシエラ・ブランカで射殺された四人の男の一人がオロスコであった。射殺したのは家畜泥棒の団を追っていた元レンジャー・ハーフ・カーネスを中心とした保安隊で、グリーンリヴァー・キャニオンで野営している四人組みを発見し、全員を銃殺した。オロスコ

と彼の仲間はディック・ラヴ牧場から家畜を盗んだ連中であると保安隊は申し立て、後に開かれた裁判で無罪となった。³

長年にわたる強度の飲酒のために健康を害していたウエルタは1916年1月13日、獄死した。⁴

1. W. Dirk Raat, "Revoltosos, Mexico's Rebels in the United States", Texas A&M University Press, 1981, P260
2. James A. Sandos, "Rebellion in the Borderlands, Anarchism and the Plan of San Diego, 1904-1923", Oklahoma University Press, 1992, P115
3. Charlehs H. Barris III and Louis R. Sadler, "Texas Rangers and the Mexican Revolution", University of New Mexico Press, 2002, P398
4. James A. Sandos, "Rebellion in the Borderlands, Anarchism and the Plan of San Diego, 1904-1923", University of Oklahoma Press, 1992, P115